

興風後集

單

興
風
後
集
單

近世名士遺草

興風後集

明治二十已晚秋新雕

序

其文以陳海內外而國難
繼起至于斯之末

皇道之沈淪極焉士以士仁人
指拘繫天以死諫回乞業業
子幸從中歿身于茲其久
也或繫于獄或死於其操

明治二十已年七月十日

撥新官卷之四也回天之
事業推是官為矣嗚呼嗚呼
嗚呼今在果耶天耶去矣
戊辰大政復于古為廢從者
志士仁人亦繼與是殊重事
一一時也
皇國之大權舍也惜哉不使

而死者在今日也彼古者亦
其難事亦如昔日乎彼亦
以余見之死者之送憾却為陪
于昔日乎禮又為慰藉祝乎頃
日先帝城蓋文集其所送詩
文以玉喻以如如也彼見
者感其厚也祀德之繼生志

而解送感於心焉甘苦心可
謂此世而學也身苦心累不以意
則此世為捕平政道豈亦哉

明治二年癸未立之日秋七月

識於京師也

山越 原子道



興風後集

代笠亭記

巫洲川西確輔

世所謂奇節之士不出於詭激矯誑之習必發於究
越無聊之餘出詭激矯誑之習故其言蕩發於究
無聊之餘故其行鄙鄙與蕩固不可以語奇節而似
者非者滔滔皆是深歎乎余友人會津松本君寒
絲為人沈毅而寬誠懇而敏居常讀書究理尤尚新
安之學敝衣垢面蠶食水飲恬如也然時辭言談及
時事慷慨淋漓不能禁或至擊案疾呼奮躍不自措

蓋天性然古所謂奇節之士。我於君見之矣。頃者質
城東開寂之地。構亭其中。命之曰代笠。其意蓋謂當
今侈靡為風。構一屋。必擲數千緡。勢聚異木奇石。以
眩耀眾人。何為於吾亭。我以避風雨而已。代笠笠而
已。因徵諸友記。余曰。君奇節之士。往來西遊九州。經
長崎。入薩摩。踰筑豐。航四國。歸又取途奧羽。到鞆。觸
之界。有深感焉。因屏居著書。則其居豈尋常風月之
辭。可能藻飾乎哉。蓋偃武以來。兵寢刑厝。戶殷民富。
似無四方虞者。而西虜之伺我。非一日也。昔

神后征三韓。北條氏鑿元兵。而豐公又大舉蹂躪朝

鮮。耀威海外。是皆足以落諸蠻之膽矣。然國有弱於
古而強於今者。亦有強於古而弱於今者。蓋當今我
馬之強。莫如西虜。西虜之尤強者。莫如魯西亞。諸厄
利亞。魯西亞。諸厄利亞之掠土。不過沿海地方。而越
人國以取人國。要無大舉之虞。獨其尤可懼者。魯西
亞已。夫魯西亞之為壤。起西北。漸東而於東北。約可
方萬里。既北。併雪際亞。南服度爾格。東蠶食大韃靼。
而蝦夷。迫嶋。悉為所有。東西直接。松前。特隔一水而
已。昔魏絳說晉侯曰。戎狄貴貨易土。嗚呼。古之夷也。
略貨財。今之夷也。貪土地。古之夷也。事交易。今之夷

也。做法教。是可不懼乎。且我聞之。魯西亞之酋帥。常帶銅版於腰。畫以一母乳五子圖。曰不撫五州非吾子孫。又曰。我自得度爾格。炮制水戰。益熟。異日或乘國家之隙。大舉窺邊陲。恐非復往時元兵之比也。抑國家禦夷虜。猶屋蔽風雨。露霧也。露霧之中。人微而浸。風雨之傷。人暴而慘。往事西虜當國家擾攘之際。潛入邊鄙。以其法教誑誘我民。猶霧露之中。人微而浸也。當是時。不待奇節之士。事既有措置。未知一且風雨驟至。加之。以雷霆滂沛。鏗錮咫尺。不辨。拔木發屋。全身露坐。將何以禦之。君既以屋代笠。亦將以

何物代屋。君哂曰。不必大聲。

茅根伊豫助泰

安政未未四月廿六日。以幕府之命。與安嶋大夫及大竹儀兵。同抵評定所。受審。此行禍殆不測。將出。撰詩二篇。乃把筆一揮。留以與兒。態太即。他日成立。其有以知余之志也。時屬天明曉。雲慘澹。杜鵑悲鳴。如訴冤者然。

長鯨橫海。驕妖氣蔽日昏。奈何春秋義氣。勢付空論。黃言入左腹。羅織付宗藩。額筮既無佗。痛哭聲每吞。忽值紫泥。詔。遣傳自天關。我公感且奮。禍福寧

違論修據良幕府。正將答至尊。皇天未悔禍。逮捕
驚禁垣。况此螻蟻。凝糞粉亦何怨。嗟予真不肖。學
術無淵源。壯歲得虛名。要地浴殊恩。感過不自揣。欲
擇狂瀾。擬報效無涓埃。疎漏忽離根。今日逢窮鞫。豈
復坐平反。丹心尚如火。誓欲雪君冤。生前所未報。竊
期椒山言。

揚椒山望刑詩曰。天王自聖明。制度高千古。生

前未報恩。留作忠魂補。

嗟予生不辰。夙懷小同悲。

鄭言之孫小同。遺服于也。顛後與教誨。

一仰萱堂慈。丁艱服未除。歸葬遂無期。我父在故山。

惟炭武相隨。忠孝兩虧矣。不覺血淚垂。萬死固其分。
報恩更付誰。兒乎纔五歲。遙望成之時。日月易蹉跎。
須擇友與師。慎勿效俞愚。頑鈍失機宜。勿懲俞遭禍。
懦弱易操持。涵誦道義中。險夷須以之。望海月兩次
掛跪誦此詩。

詠古

欲雪王家歷世羞。皇風不競幸西州。夢夢豈無天定
日。漁舟一夜為龍舟。

無題

長風掃却半生愁。湖海已做兩日遊。微醉醒來情未

盡滿船明月送歸舟。

山岡八十郎

無題

不論世路有風濤。浩氣從來養得豪。誰識天公賜閑地。欲添詩格十分高。

弘菴藤森大雅

書悶

高樓把酒倚長風。百感中來不可窮。嘉吏常言通互市。迂儒動欲議和戎。名場老矣願將鶴。故國歸歎意似鴻。一片葵心猶未已。蛩壺聲碎氣徒雄。

摘廷尉訣子圖

男兒許國身偏重。拜地旋天心所銘。莫怪湊川輕一死。此心附託有寧馨。

黑澤忠三郎

無題

呼狂呼賊任人評。多歲愁雲今日晴。方是櫻花好時節。櫻田門外血如櫻。

河野顯三通桓

偶成

皇路傾危事事難。奸臣黷虜覆乾坤。愛邦烈士後先

沒自媿餘生在柴門。

戶原卯攝繼明

讀佛法護國論

在長州時作

治本有道導之令就下。治天下有道開言路通下情而已。近年外夷之垂涎于我邦者。凡數十國矣。加我以侮慢之辭。要我以污辱之事。其恣睢狡猾不可勝言也。於是天下之士。苟有所見者。皆建言立策。以願有裨于國家也。而幕府遣吏於四方。聞有言苟涉于國家者。輒逮捕竄逐。以箝其口。其獲于京師者。亦不下數十人。天下之洶洶職此之由也。頃僧某袖一

卷來曰。此我黨其所著也。某嘗守之本願寺僧。本願寺僧乃上之梓。以頒天下者。予披閱之。則其徒見外夷之猖狂。懼其道之或衰而失其利也。乃有此舉焉。然其書援古徵今。舉外夷之蠱毒。而破天下之瞽盲。其言深切著明。猶慈母之誨稚子也。雖然。彼所奉之道。亦外國之道。而我所誦道也。與夫墨魯諸夷之道。相去一間耳。而今其惡之如仇雠。拒之如豺狼。其設方畫策。盡力無遺也。予近聞之人。或云萬國星羅。自天地視之。一赤子也。彼之道。如我之道也。彼之教。如我之教也。互市可許也。和親可結也。嗚呼。是人也不

及一斃頭之徒遠矣。夫釋氏患其道之衰也。苟有一
言護道者。乃舉而布于天下。今乃不然。苟有憂國關
道者。捭摺之。殺戮之不措。宜矣。我道之日汚。而釋氏
之道日隆也。豈得不慨然哉。

囚中雜吟

衰朝偽學屬儒生。謾以安排惑物情。天意茫茫何所
在。里談巷說却公明。

藤田小四郎信

述懷

從來世事去悠悠。空使英豪齊素謀。紅氍辭技風裏

散。翠烟繞樹雨餘浮。忽醒三春京洛夢。更添炒邊萬
里愁。今日何人護。天子。據夷風。詔淚難收。

題陣扇

人生百年何所成。夢中死去醉中生。誰知東海魚鹽
裡。講學粗通治亂情。

東行高杉晋作

獄中作

孤身在縲紲。胸間百憂集。只知有今朝。不知有明日。
曉鶻呼星上。旭日透獄憲。捭之空。涕淚聞之又斷腸。
斷腸非恨寬。涕淚非惜命。外患迫吾君。如何此邦政。

田中河内女綏猷

皇り為國乃奪をと思ふもまや
ひとのあはれ此はし一昔あちらは
大毒の降し獲はとく死しくも
人とまもて一甲斐及ハ有まなり
我よりそやせんゆや皇の國と
憂ふる人と有りま利

時をささうて
ほろくも寸なくあまきけハ瘡をうと
重し井いひたてあふは比

海鏡宮門連求

夏の兼乃み一しつと床の夏たふと
國中よりまくとむすひうをまれ
情多ん
みつきさゆくと國れたゆくとまりのん
人の心映まうやゆりまれ

廣本ねし分群

獄中よりとせらる良秀

病の若々病草はよまをうたを承きしゆけいそん
ちうきくそま乃果の半は事むとひかきうたをたけり

はつしれぬひつてゆく平らなるがらひをわたりてわたりて人の梓ふ
やたけをたると同じく是れ武彦世にゆきおきて君の侍るもり
とてまゝの入りりすて小ね持さしりてまきまひてまふみは
乘をばゆりあひひてまき推しつるも世の思始りまふ也
武彦世をもちまきやつるもまきあけつるも国守の思
さりとまひつやふ可くまき侍奉し教破りまきわらしめつるも
まきゆき。魂やつるもまきあひつるもまきあけつるも先
あけゆき。天の下に成の思をまきあひて我大君は侍るもり
まきあひつるもりあけつるも侍世の侍極まふ也。八代まき
まきあひつるもりあけつるもりあけつるもりあけつるもり

八代まきあけつるもりあけつるもり

大八湖の思まきあけつるもりあけつるもりあけつるもり
道みて天津津中にあひひつるもりあけつるもりあけつるもり
あけつるもりあけつるもりあけつるもりあけつるもり
あけつるもりあけつるもりあけつるもりあけつるもり
あけつるもりあけつるもりあけつるもりあけつるもり

關 藏 助 遠

土成のまき九島の朝をの陪もまきあけつるもりあけつるもり
梓まきあけつるもりあけつるもりあけつるもりあけつるもり
あけつるもりあけつるもりあけつるもりあけつるもり
あけつるもりあけつるもりあけつるもりあけつるもり

記 喜

かりひのつら獄をたぐれを梓ノ弓
強らひしをてひきとめくすむ

亂臣在獄圖

身ハつくと洗みまつくと君ハ世に
うさるをりもぬはそとすしれ

亂臣獄中及知能圖

さくゆ山の糸よりほそとまはれ
後つすハハ何しとまはりま

齊達速懐

酒くし此名のふ砂りをまきのふ乃

たまをけりゆとらうらみなるむ

運備しきるとこ

東 楳 男

我あまつをめくと七すくと慶ひち此
たうにぬ身ちをまもも忘らさく

十津川軍事

前侍從忠光朝臣

君のともん赤きこころと下くして
知美ふと教まをますう惟の友

隊長社命を告ぐ

聖崎主斗正盛

大君よりはくくをますつるを日より
さう月つりとをわきりま

伴林六所先平

姉小路少将身まろの落ひり吐

いてや若林津軍をうまう〜

〜くつまう〜さ進ゆわう死たれよ

妻小送もろ〜 救 和泉守保臣

葛の星ふなう〜みてとなをか〜

〜がえ〜ぬ狩り秘風をゆ〜

原 陸太麻雄

武丈乃 彦とさぬる〜 林垣此

まう死に秘 ちをちやさう小生何

草園の道は去〜 平時所所國臣

〜く光りりり〜て今年初〜原の

都に死をいふを〜ひ〜きりり那

〜陸雲乃 獄登マモ

〜高〜く〜くも我 ちを〜ら 法國の爲

〜何〜われ〜し〜をきみおれをなくに

〜燕雀河が火鶴心〜り〜

〜拥〜り〜ち〜も〜よ〜を代〜を〜行〜し〜ゆ

〜め〜お〜住〜りの〜う〜を〜し〜か〜る〜美

〜捕〜と〜る〜り〜て〜法〜川〜と〜こ〜る〜時

竹さ魂もあらしとせと おり元 湊川
さうよとこ海まのまほる男と

本多小三郎素行

近江流れ人うとちちやつみ山
ふりうぬ清世の春や来あると

本村聖一 脚重道

美んたためはくすくろく酒戸琴此
弟ハひと篇の外は通なり

小川徳吉 跡人

姉くくさひおとてかろつる年ノ月を

はかるく送る我いのちう那

提 治府 志明

いころう小きふと昔一つ大五此
侍揃まゝあまを清くく

大空りののほくむ然此時なくく
むるく潤くひまむきふう那

文久四年といふ自註初巻上

忍みーらるまゝ此景紅中ひくむ
わ々月の事此なる乃と何月

點澤 伊若史

今更有り行にわかきんい日守とも
我志こころるる人境一侍

慈眼寺胤康

短々敷此差ととりとちささく
是し治くかたの美ふもす

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

摠田我拳健懐中封書

一墨頭浦交入港心求征更府済不置行要弄し我
有し随而済制なき要年も無し六難相成す情
有し六也十當のし有自事も多し言實し之一語
安致し情を彼へ勇煽し智心す悲訴法と云易
和親登堂相見あり長済と条約を答し終條し良
法を廣し邪教寺ヲ建三ニストル承任彼も言事糾
變し神別古來武威と標し國體と辱しの裡宗
し明訓保傳廣るる已なくす才一教済寺也
我志は長済の庭

天朝之尊位也。多矣。不若。乃。以。近。并。伊。持。如。
以。風。之。和。業。之。洞。系。以。不。將。軍。家。所。幼。少。之。保。勵。有。
素。一。自。心。之。控。威。之。振。心。為。公。論。正。義。之。志。悖。悖。
天。朝。之。遠。之。所。為。之。深。之。存。之。所。方。之。所。親。臨。之。
初。之。公。以。疏。大。小。名。所。難。也。不。浪。快。之。誣。也。或。以。近。隨。
或。以。禁。烟。也。之。所。所。以。極。而。不。致。之。以。其。秋。後。危。不。
容。易。如。之。向。盡。分。患。差。也。以。以。能。自。志。多。不。一。方。以。編。
宸。德。濟。國。內。治。平。之。良。所。人。合。新。滿。長。不。一。甚。光。之。
下。修。之。建。分。為。一。悔。之。而。又。極。在。進。度。也。一。
獻。志。也。也。為。至。公。也。一。所。為。一。教。書。之。所。下。之。以。進。也。

行。方。之。近。隱。也。又。諸。本。主。始。有。志。一。人。一。之。之。在。捕。殿。堂。一。
中。亞。以。及。甚。矣。一。為。一。之。之。二。公。所。滿。饒。粟。而。親。王。之。有。謝。
名。也。勿。作。也。一。天。子。所。謙。位。一。事。也。在。代。所。曲。也。也。
如。矣。其。之。天。下。一。以。以。好。然。一。並。人。於。右。雖。性。一。其。後。之。
考。重。其。益。天。下。一。其。危。存。亡。抱。以。其。年。其。痛。憤。雖。然。止。
京。師。一。及。奏。聞。今。夜。天。降。之。如。天。之。警。一。心。心。之。合。斬。
錢。如。滿。公。也。所。政。事。也。也。以。為。後。尊。一。王。操。其。正。誼。
明。通。天。下。方。也。一。之。南。嶽。一。安。之。一。年。一。之。度。恢。天。地。
排。人。一。之。照。覽。事。也。也。

別錄

皇國千尋世日嗣連傳として懸明たゆま 伊勢律志

上代に響く七代に千社合と看みひ或方のとそえの(自志)

餘凡百連のちるを遠味と展の(中)の(福)有(為)を精(運)

揚(の)ひ(る)ま(著)を今(之)稱揚するに不及或れの世(成)

ても(沙)若(世)あ(ち)に(麻)戸(を)保(し)朝鮮(を)征(する)事(々)

練(刑)く(或)威(を)海(外)輝(し)る(事)人(は)勝(矣)する(知)る(事)六(是)又

嘗(て)不(懈)し(未)然(言)を(あ)ら(わ)る(事)尊(王)操(英)を(法)志(傳)

此(の)為(に)兵(不)及(下)止(洋)國(盛)る(事)に(巧)成(を)若(福)也(其)痛

畏(服)して(親)諭(し)志(する)に(世)に(是)年(惠)恩(を)終(し)其(書)有

業(と)績(乃)り(分)る(事)洋(教)く(禁)を(廢)す(一)つ(大)款(を)あ(ら)る(事)

是(の)非(教)と(融)消(斬)然(一)つ(日)明(る)事(と)排(成)と(心)海

布(る)事(一)つ(年)後(一)つ(古)く(英)見(身)儀(法)嗣(連)奉(一)つ(身)

妙(之)以(進)以(し)る(事)を(大)扶(授)保(護)略(し)志(を)く(事)と(美)即

通(後)交(易)迹(小)と(亦)を(弱)き(と)征(す)事(一)つ(大)相

成(年)一(連) 排(刑)を(親)諭(する)事(を)今(之)打(拵)今(命)

有(し)時(に)排(刑)し(事)を(も)は(き)す(事)を(も)成(し)不(得)して

打(す)事(後)天(謀)す(事)を(打)拵(し)今(を)俟(止)して(新)に(悔)と

七(連)一(事)を(先)納(し)大(扶)授(法)慮(の)体(を)取(り)る(事)統(中)

嘉(永)全(全)を(大)浦(女)に(入)港(最)成(と)す(一)つ(難)題(と)す(事)統(中)

公(米)征(大)府(一)つ(洋)不(至)事(々)に(時)珍(愛)事(を)有(し)統(中)

併國威法之維維法進其治世凡此皆有之
丁進之年其初之會欽元之願予之對不謀之
艱難之途予之被差法之邪惡之漸寺之臨
神印之奉香之抱其眼大基小所崩淺濟一定
之內
位嚴重之勳予之多年防禦之高國力之貴
一之勳也
勵一之不可測之在予之親交易所及法之上
之怒氣之
助一之不可測之在予之親交易所及法之上
之怒氣之
助一之不可測之在予之親交易所及法之上
之怒氣之
助一之不可測之在予之親交易所及法之上
之怒氣之

以進交易之法才一 教行也 不修其身
有自於其子者志之國之老弱能者所
中業一之其法也其在世也亦如之
以過天下法也對之大哉其在分難
以如也其可也其在世也亦如之
居世而行也其在世也亦如之
其德也其在世也亦如之
才如法也其在世也亦如之
教行也其在世也亦如之
補錄全法也其在世也亦如之

龍顏之下言也 權係細事 不一方也 今上皇帝
聰明純倫 不載不世也 聖皇後也 七也

皇國所屬 第其尊嚴 國體淳厚 風俗 今上

時代 爲其英祐 爲其清和 探布 探布 探布 探布

任勞神官 皇臨 時代 神業 被在 附

皇德 神經 不敏 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其

國體 不夫 爲其 安極 化感 爲其 爲其 爲其 爲其

爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其

國事 如何 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其

爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其

不敏 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其

爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其

或難 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其

累印 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其

今年 八人 堂子 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其

王公 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其

殿裏 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其

達市 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其

爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其

最爲 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其 爲其

河平若漏入有、德川家、河明徳と千五百、爲世
近有操を色、將軍家河大卿、人、河平、
初、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、

河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、
河平、河平、河平、河平、河平、河平、

朝威確乎、河平、河平、河平、河平、河平、

罪を千編、司教近傍、殿之帝、殿河、深、借、河、性、多、進、
其、年、其、所、諸、古、史、地、河、一、夕、罪、科、年、若、年、を、夏、捕、り、糸、
多、年、上、史、之、罪、及、く、西、右、史、と、考、し、虎、松、に、種、威、を、以、て、大、力、を、
屏、息、せ、り、其、内、之、在、港、并、那、教、寺、小、部、延、ぶ、其、の、由、り、若、
河、に、其、上、音、達、院、宮、河、在、通、る、是、河、其、傳、り、持、り、歸、
河、ち、務、を、終、り、を、幽、閉、し、不、業、を、怒、り、玉、體、を、辱、し、
撓、息、顯、然、す、り、と、亦、未、だ、利、し、恭、恩、傳、り、を、示、共、載、り、
國、城、と、つ、一、層、の、嗚、呼、し、以、信、お、し、さ、る、を、結、り、き、り、神、判、り、
由、身、を、必、出、肉、地、し、好、民、邪、教、廢、之、以、て、珍、物、を、賜、り、
皇、國、く、好、被、り、身、信、以、て、信、り、正、朔、と、存、り、る、年、の、

上、り、を、り、物、苟、も、人、心、有、り、と、多、く、痛、哭、取、大、息、を、不、法、事、
を、り、と、推、然、事、態、を、り、信、以、り、と、地、を、隱、り、河、に、家、傳、家、
門、の、尾、尾、を、り、一、橋、及、城、前、及、河、の、及、用、の、及、り、如、き、
德、川、河、家、輔、信、り、自、り、り、有、り、介、孫、諸、侯、を、り、孫、判、信、者、
龍、家、照、然、長、列、之、長、り、和、高、折、河、不、天、下、く、有、忠、情、り、
念、皇、家、不、意、有、志、然、處、り、有、り、流、と、幻、河、家、門、を、り、
輔、佐、の、軍、家、と、考、り、肉、地、を、備、り、介、列、有、志、り、然、處、り、
一、月、也、り、と、考、り、武、滿、也、り、と、於、六、神、判、り、取、身、を、一、洗、
り、七、可、有、志、り、感、其、年、天、地、神、判、り、如、心、若、年、有、難、地、り、
由、今、堂、地、機、器、起、り、と、天、下、く、公、偏、柯、參、と、持、在、能、り、と

天下を與記せんを欲す如依く養ひ子孫人々を名無解
く國宰く七ゆると養ひて必死す二十年奉養 玉恩を
戴く言奉養奉養恩を思ひて流涕するを難く以て念を
切らん或奉養く小は痛懐切事く念く應念不替日速送
恨を念く時世を養ひく彼を返つて坊長も七是唯徳の
雖人言く子々養ひ 紳則に返城心然も則天通神人
同情く時世を天下有志く老令力同心く天下を好
賤も流然律切を養ひく切く其也

申三月

丙午有る方儀十七人落士三人合十久人情中致 兵部

成正月十日 於江府極下門外之園先安若對馬上

及積務十名の内 豊原邦此年

杜方神貫以 内田方此有社政即如居志并涉生

号正徳 内田方 此有社政即如居志并涉生

此有社政即如居志并涉生

斬逆越違書

申年三月歩心報國く案濟大老并修撰執頭及近折書

昇年毛須有封幕府より授美心美六等く持統御殿執政

以来月已く持統御殿より授美心美六等 天朝以て官志秋

天威志許以て心持く據據心更く美士と惡之已く威力を

示之文滿、所滿、也、以、候、也、 神國(罪人の性
は、在り、也、) 例、も、有、り、自、然、に、幕、府、に、悔、意、を、申、上、り、而、
後、尊、 天、朝、を、杖、と、爲、り、國、家、に、毒、を、入、心、し、南、狩、を、爲、
す、心、付、し、事、を、有、し、ち、存、抛、身、命、を、及、斬、害、を、以、一、向、
す、悔、心、し、許、す、務、に、相、言、へ、不、下、彌、許、す、義、に、則、ち、亦、
以、幕、府、に、後、入、一、同、一、罪、に、以、つ、て、可、否、を、中、に、對、し、
守、殿、に、丹、伊、家、執、政、に、時、々、同、服、を、恭、敬、に、手、傳、せ、且、杖、
搦、給、願、死、せ、と、候、も、強、く、悔、悟、し、心、を、し、志、附、し、す、其、好、
隨、に、許、給、以、爲、す、趣、也、條、に、事、件、多、有、り、也、種、々、
云、矣、(罪、を、難、し、也、) 天、朝、に、同、報、し、小、人、も、已、に、後、元、

事、を、備、へ、奉、之、候、志、報、國、に、志、烈、愛、を、申、上、り、候、有、り、
而、も、美、狄、に、力、を、傍、可、に、押、し、心、慮、顯、進、せ、し、
神、別、に、賊、大、可、下、方、に、危、凶、供、を、打、込、り、を、有、候、
趣、也、事、に、ハ、石、乃、下、幕、府、に、許、さ、給、へ、許、さ、給、事、を、以、
成、行、十、貫、迄、も、御、付、合、は、給、へ、御、成、り、を、御、言、へ、ん、に、
如、く、不、容、易、に、許、さ、給、存、在、其、上、爲、候、(行、儀、抄、に、所、
因、御、知、忌、し、許、さ、給、事、而、已、之、一、事、迄、) 候、也、
事、に、内、下、に、大、杖、亂、打、し、物、を、取、り、事、に、必、應、し、御、
心、を、存、在、し、行、儀、も、幕、府、を、難、去、右、に、全、封、爲、り、願、望、
御、儀、を、考、へ、給、候、(如、く、難、記、) 且、幕、府、臣、子、等、も、已、に、

儀、難張止い、微修中、合封馬、中殿、新銘、中、利馬
中殿、罪状、二、石、信、奉、公、命、今、其、一、端、を、奉、中、一、信、中
以、及、皇、妹、行、偏、他、を、表、向、主、使、天、朝、中、一、事
捕、五、路、の、公、武、行、命、符、を、安、と、市、に、信、を、実、に、奸、謀
威、り、と、信、を、奉、表、在、其、に、固、結、し、船、行、産、に、反、以、後、必
定、皇、姊、を、搦、搦、し、て、外、交、易、濟、に、決、し、

救、渡、と、押、し、下、し、ま、し、然、可、有、し、主、武、義、不、叶、し、而、に、
竊、天子、行、儀、位、を、年、確、心、慮、に、既、に、和、を、在、
し、付、廢、帝、し、古、例、を、法、を、兩、調、に、踏、求、ま、る、將、定、家
と、不、武、行、入、新、世、に、後、思、進、し、名、を、流、に、取、取、年、に、行

之、小、東、是、何、も、打、我、に、運、味、の、切、甚、痛、憤、し、下、極、也、極
又、外、島、を、放、し、去、り、利、守、守、取、得、得、懸、懸、可、憐、之、故、何、ぞ、
彼、の、中、に、隨、以、日、本、用、海、測、量、し、又、亦、其、中、に、
常、番、を、使、去、却、し、海、舟、を、一、要、地、行、殿、也、を、外、島、を、使、去、
彼、を、奪、を、我、國、に、去、し、し、其、義、同、極、也、有、其、三、外、島、
懸、掛、は、法、の、事、を、向、主、使、及、懸、掛、皆、其、因、縁、認、識、に、
名、圖、紙、も、中、に、有、し、事、も、中、に、有、し、其、義、同、極、也、
新、政、は、彼、の、終、り、天、朝、を、廢、し、幕、府、を、例、し、身、を、封
爵、を、印、也、信、を、捕、り、取、得、し、其、義、同、極、也、
く、亦、其、事、の、中、に、懸、掛、を、進、し、し、亦、其、事、の、中、に、
懸、掛、を、進、し、し、亦、其、事、の、中、に、懸、掛、を、進、し、し、

往遊美友以表河政心一有在河與康相係以事
西康河卒以事河勸考以遊倭後大轉以卯夫也陸
行上 神到以河國師幕府河感先以地蓋示以
去矣述以心令伊仕以尊 王棟夫以大典也電方後
下下以道有以去下國師死生也其後以以河不
在河政河河臣示方今以授河都教我之業以緒
有用以熱熱懸河知以傲志河智懸惶謹言
文久二年戊寅月十日

長藤朱原良義野指同御所服以御遺書

和言有以尊

王棟夫志不可辱以之迄來忘義以相心河以事
不忠不義以自取自今之巧也人之以也其以罪逆
如命其年支到勝仕以河以餘亦移文字也入以

朱原良義

三、以河廿九日

河以恩惠以令一之報一以河以河以河以河以河
其以恩入河以河以河以河以河以河以河以河以河
以河以河以河以河以河以河以河以河以河以河

是も師たるんやもなきまの事と河

六月廿五日。

良藤盛切判

親文極

おつひ極

初かそ又十志長の心裁りを一年に先南六知り
あるまぬるを肝要たる極くは

良藤盛切判

朱原友左衛門殿

同 西條守辰

辞世

雲霧拂と四書ふもくろの位月をよみしにやこそそと子守
けりしの河たをさしせといひやう思またもくはの長女
まの河をたのむに余り、河歌をたこせまうくは先なる
友だち此世の文つらこをささうやうく懇うのつら
たりとろくろのいひのうさひ又は惜しくはせりし
たの痛むをぬるまをささ二十年來のこのつらと喜ぶ
るこつらとまうくおひつらとらとまうくはつらと
はつらとまうくおひつらとらとまうくはつらと
の河あきりなうとつらとつらとつらとつらと

朝夕淡無く行影の肝憂をきる信はとてし

六月廿五日

良茂

福原おのりき殿

御立及り何もの心尽くしゆ先令を中へらも是れくいはり
和田氏の娘は娘の妹とて不肖なるう良茂を主とす
所見まはらぬ様とて存せりてし

七月一日

良茂

おもひあ

右遺文系る京所出立東下し知友人の様子を
道中へ有しる必死を悟道とて徳ゆし友月日し相違
る人懐くむ事なることとて

城 兼文藏

和漢洋書籍賣捌所

京都寺町通四茶北入町

文求堂 田中治兵衛

Blank page with vertical lines for text.

